

令和5年度 日本大学習志野高等学校 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

日本大学の目的及び使命に基づき、全人的教育を施し、国家及び社会に有為な人材の育成を教育目的としている。この教育目的を達成するために、

1 自主創造の精神の育成 2 高い理想と真剣な学習態度の育成 3 知育・徳育・体育の調和的育成

を教育目標に掲げ、生徒一人一人が明るくのびやかな学校生活を送り、自主創造の精神を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成を目指している。さらに、自主創造の教育理念の下、日本大学教育憲章に基づき、自ら学ぶ、自ら考える、自ら道をひらくことができる、協働力を持った生徒の育成を目指している。

〔本校の特徴〕

本校は、理工学部併設校であり、広大な大学のキャンパスの中に学校があるという極めて恵まれた教育環境を有している。進路の多様化に対応したコースとカリキュラムを有し、理工学部との高大連携教育が実践されていることを特徴とし、生徒一人一人が明るく伸び伸びと文武両道の学校生活を過ごしている。

〔令和5年度の重点目標〕

広報において、生徒募集の強化として、志願者数を増やすため、入試方式の見直しを行う。具体的には一般入試において、2日間の試験を実施することにより、1.2～1.5倍の志願者数増を目指す。また、第一志望入試においては、面接試験の導入が決定し、筆記の得点だけでなく、総合的な判断により可否を決定する。

〔令和5年度の自己点検・評価結果〕

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度取組方策 (Action)
教育活動	「新学習指導要領」への対応	- 成績評価基準の見直しを行い、カリキュラムを改定した。 - 観点別評価の評価法について、各教科に評価法の検討を依頼し、令和5年度の反省を踏まえたもので実施できた。	A	- 成績評価基準の見直しを継続して行う。 - 観点別評価の検証を行い、より良い評価法を目指していく。 - 全学年が新学習指導要領に基づく教育となり、より良いカリキュラムになるように検討を行う。
	生徒による授業評価アンケート結果に基づく授業改善	評価を謙虚に受け止め、改めるべき点は改善した。アンケート結果から報告書を作成し、教員一人一人が今後の改善の指標として活用している。	A	2学期(10月)に授業評価アンケートを実施する。 - 授業評価アンケート後に報告書を作成(12月)し、3学期より改善していく。
	「高大接続改革」への対応	1年生では、7月に生徒対象「理工学部長講演」、保護者対象「進路説明会」において理工学部長からの学部説明を行った。 2年生では、CSTコース(日本大学理工学部への進学)が設置され、理工学部との高大接続教育としてMU(モチベーションアップ)プログラムを進めた。内容は、理	A	1年生では、7月に生徒対象「理工学部長講演」、保護者対象「進路説明会」において理工学部長からの学部説明を継続して行う。 2年生からCSTコースを設置し、2年間、MUプログラムを継続して行う。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	・令和6年度の取組方策 (Action)
教育活動		- 工学部全学科に訪問し、教員等からの学科説明を受けたり、施設見学を行ったりした。 3年生では、CSTコースでMUプログラムとして、理工学部の進学希望学科の教員の指導の下で、6月に「コンセプト発表会」、12月に「成果発表会」を行った。また、理科実験科目・専門科目・教養科目の大学の授業を受講し、大学入学後に申請することで、大学での修得単位となる、高大接続教育を行った。		・
	教務業務デジタル化			- デジタル採点の導入を進める。 - デジタル出席簿（生徒出欠集計）の導入を進める。
学校生活への配慮	いじめ防止のための取組	いじめ案件については、生徒・保護者から申告があった際、それぞれの案件に応じたチームを直ちに編成し、組織的かつ迅速な対応をした結果、大きな問題に至らなかった。7月・12月の年2回、いじめアンケート回収後、内容を直ちに精査した。気になる申告があった場合は、各学年に情報をフィードバックし、担任を通して聞き取りを実施した。それを基に学校・学年・指導部で情報を共有し、生徒・保護者と連携を取っている。	A	- 軽微な段階から早期発見・組織的対応に徹する。 - ふかんな視点をもち、加害・被害双方のバランスを常に意識する。 - いじめアンケートを年2回実施し、結果を学年会・教職員会議で共有する。 - 生徒・保護者の立場に寄り添い、懲戒的なものではなく、生徒の未来・将来を見据えた解決方法を心掛ける。
	校則の改訂	昨今の生徒・保護者の実情に寄り添った校則の改訂を目標に議論を行った。	B	校則の改訂は困難が伴う。日本人の文化に根ざした、伝統的・地域的なもの、日本大学・各付属校の理念等に鑑み、教員相互の価値観等ができるだけ一致できるように、教員間で議論を深め具体的な提言をしていく。
課外活動	学校行事の円滑な実施（通常どおりの行事に近づけるように工夫する）	- 体育祭や文化祭等の学校行事をコロナ禍以前の状態まで戻す形で実施できた。 - 文化祭では保護者以外の一般の来校者を認めた。 - 福祉委員会で総額56,496円の募金を行った（文化祭バザーと赤い羽根共同募金との総計）。 - 文化祭が2学期実施となり、出し物の質を向上するように努めた。	A	- コロナ禍以前よりも来校者数を増やす方策を拡充する（現状では本校保護者へのHPなどによる連絡、近隣中学校等へのポスター送付をしており、それ以外に地域に貼り出すポスター数を増やす）。 - 募金金額の多寡ではなく、募金が社会の助けになる意識を涵養する。 - 文化祭において、出し物の質を向上する取組は継続して取り組み、生徒の参加意識を高めていく。
	地域活動への参加	地域社会の「第10回東日本大震災復興支援イベント 花いっぱい in 習志野台」に運営委員として生徒会運営委員会の生徒9名が参加した。	A	地域活動を主催する団体と連絡を取り、生徒が参加できる地域活動・ボランティア活動参加を継続して目指す。

評価項目	取組目標 (Plan)	・ 取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	・ 令和6年度の取組方策 (Action)
進路指導	日本大学への進学者数増加に向けた取組	- 学部見学会の実施や経済学部長・理工学部長による講演、オープンキャンパス開催のお知らせの配信等、高校側として実施すべき取組を実施した。 - 外部業者による基礎学力到達度テスト対策講座等も実施し、テスト対策も行った。	B	世間的にマイナスイメージが日本大学にある事実是否めないため、その点を払拭するためには、本校の教員が説明をするよりも日本大学の教員や広報担当者に説明をしていただく方が効果は高いと考えている。そこで、可能であれば各学部の教員や広報担当者に来校いただき、生徒や保護者に対して直にお話をさせていただく機会を設けたい。
	第一志望合格の実現	- 以前より国公立コース対象の代ゼミ受験講座を開講してきたが、令和5年度は私立コースにも長期休業中に特別講座を開講した。 - 学年担任と進路指導部とが連携を図り、指定校推薦に頼らず、生徒のみならず保護者に対しても「第一志望合格の実現」を目標とする進路指導を徹底して行った。 - 自学自習の際の補助教材として、スタディサプリ(リクルート)の活用も促すことで、各自が苦手としている分野の克服に真摯に取り組むことができるようになってきた。	B	- スタディサプリの更なる活用を促す。 - 外部業者による放課後講座の拡大を促進する。 - 指定校推薦に頼らない進路指導を実現させる。 「第一志望合格」を達成するための強いメンタリティ、モチベーションの育成を図る。
保健衛生	教職員の健康管理の充実	- 健康診断の結果に基づき、産業医の指示の下、衛生管理者(養護教諭)による保健指導及び産業医面談を実施した。特にメンタル面で不調を訴える教職員が増加したため、衛生管理者より管理職に適切に情報提供を行い、産業医意見書を基に教職員の健康に配慮した職場環境になるよう調整を行った。 - 健康診断未受診者には、対面・メールなどで複数回、受診を促した。	B	- コロナ禍から学校行事等が平常に戻りつつあり、業務量の増加に伴って令和5年度は教職員の健康診断及び人間ドックの受診時期が大幅に後ろ倒しとなった。自らの健康を犠牲にしての業務は本末転倒であるとともに、ストレスチェックでは多くの教員がストレス過多を訴えていることから、教員自ら健康に対する意識の向上を目標に個人への情報提供を充実させたい。 - 受診予約のしやすさは、日本大学理工学部(船橋校舎)庶務課のシステム導入に伴い向上したが、従来の方法に比べて、衛生管理者が関与しにくいいため、令和6年度は日本大学理工学部(駿河台校舎)庶務課担当者の尽力により、7月の健診予約枠を増やしたため、時期を逃さず、保健衛生部からきめ細やかな声掛けをしていく。
	相談室との連携	- スクールカウンセラー(S C)と養護教諭で定期的なケースカンファレンスを開催し、相談室の役割、保健室の役割を都度、確認した。 - 経験の少ない教員に対しては、S Cがスーパーバイザーとして生徒指導や保護者対応について助言を行った。	A	- 相談室と養護教諭のケースカンファレンスは継続して行っていく。 - 不登校傾向の生徒が早い段階で相談室につながれるように保護者や生徒向けに相談室を気軽に利用できるよう、周知していく。 - 生徒に関しての相談であれば教員もS Cに相談ができることを年度始めや学期始めにClassi などを通じて、周知しておくことで、問題の抱え込みや教員自身の精神的な孤立を防ぐ手立てとしたい。
図書	図書の利用促進	蔵書の充実 定期的に新刊・話題作を購入した。教員・生徒からの希望図書を適宜購入した。また、図書の新刊見本展示会を行い、教員・生徒が実際に本を手にとって選書が行え	A	蔵書の充実 新刊や話題の本は生徒の読書活動を刺激するために必要であり、継続して適宜購入していく。電子図書館の蔵書も同様である。また、令和5年度実施した読書アンケートを令和6年度以降も実施していくことで、生徒の読書傾向を把握していく。見本展示会を実施し、教員・生徒双方の目線からの選書も

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度取組方策 (Action)
図書		る機会を設けた。さらに、図書室のスペースは限りがあるため、電子図書館の蔵書も充実させ、生徒のタブレットでも手軽に読書ができる環境を整備した。 ・ 閲覧・自習室の利用 図書を閲覧するだけでなく、定期試験前に自学自習できるスペースとして開放した。 ・ 図書委員による活動 ①図書委員で分担して、図書室カウンター当番を行った（昼休憩・放課後）。 ②文化祭（11 月実施）では図書委員による推薦図書の展示及び紹介動画を公開した。 ③6 月と2 月に生徒ラウンジで図書委員主催のビブリオバトルを行った。 ④推薦図書の選定及びその推薦文をまとめた機関誌「渡書」を発行した（年3 回）。 ・ 以上のような、取組により、図書室の貸出しは令和4 年度の同時期と比較すると令和4 年度 678 冊に対して、令和5 年度 1,024 冊、電子図書の貸出しは令和4 年度 292 冊に対して、令和5 年度 406 冊と利用者が大幅に増加した。		引き続き行っていく。 ・ 閲覧・自習室の利用 普段の利用だけでなく、引き続き学習の際に、赤本や参考書が利用できるスペースとしても管理・運営していく。 ・ 図書委員による活動 令和5 年度の①～④の取組を継続実施していくとともに、ビブリオバトルの活性化等図書委員以外の生徒の読書意欲が高まるような企画を実施していく。 ・ 総合的な探究の時間や授業での図書室、閲覧・自習室の利用 ・ 調べ学習等で図書室を積極利用することで、図書室を身近なものとし、利用の活性化を目指す。専任・非常勤講師を問わず、授業での図書室活用の案内をしていく。
	研究紀要の継続的発行	・ 教員の資質の向上及び専門領域の拡充のため、研究紀要を2 月に発行する予定であり、現在校正作業中である。	B	・ 教員の資質の向上及び専門領域の拡充のため、2 年～3 年に一度のペースで発行できるよう執筆者を募る。
広報	生徒募集の強化	・ 一般入試の回数を1 回増やすことで、本校の受験機会が増えた。その他の入試変更点を塾や中学校に送付することでアピールした。	B	・ 東西線、総武線の利用により、都内から本校へのアクセスが良いことをもっとアピールし、都内からの志願者数を増やす。 ・ Instagram の開設ができなかったため、令和6 年度開設とSNS を活発に活用する。
	Web サイトの活性化	・ 令和5 年度は、4 月から1 月までにおいて、本校ホームページでは新着情報 121 件、部活動ブログでは新着情報 100 件を公開した。	B	・ 令和6 年度は、海外語学研修や修学旅行の新着情報を他の新着情報と混在させないように、新たなページを作成し、今よりも見やすい発信をする。 ・ 受験生に重きを置いたホームページであるが、在校生や卒業生、さらには教職員も興味を持てるよう、Classi に記事公開を知らせるなど工夫する。
	スクールミッション及びスクールポリシーの公表			・ スクールミッション（建学の精神）と教育活動の指針であるスクールポリシーを、ガイドブックやホームページにおいて分かりやすく公表し、受験生や保護者、地域社会等へ理解していただけるよう努力する。

評価項目	取組目標 (Plan)	・ 取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	・ 令和 6 年度の取組方策 (Action)
管理運営 (分掌・会議・委員会, 財政, 施設・設備など)	適正な労働時間の管理	・ 有休申請等について, 本校独自の勤務管理システム「勤務の友」を導入し, 教員の申請の煩雑な作業をなくした。	A	・ 今後は更に適正な管理ができるように, 「勤務の友」の改良のため, 管理職, 事務担当者等で打合せを行い, 改良点を明らかにする。
	本校 100 周年に向けての施策	・ 2029 年の本校 100 周年に向け, 2021 年度 (令和 3 年度) より立ち上げた委員会で, 理工学部と相談の上, 記念棟の建設・制服リニューアル・記念誌の発行等に向けた検討を行った。	B	・ 記念棟の建設に関しては, 検討が進まなかったもので, 方向性を含めて検討を進める。 ・ 制服リニューアル, 記念誌の発行は継続して検討を進める。

【令和 5 年度の自己点検・評価結果概要】

どの評価項目においても, 各部署で工夫しながら取組, 目標をほぼ達成することができた。特に, 広報において, 令和 5 年度の重点目標としていた生徒募集の強化として, 志願者数を増やすために一般入試を 2 日間実施したが, 前年の約 1.5 倍, 757 名の志願者数増となった。第一志望入試では面接試験を導入し, 本校への入学を今まで以上に強く考えてくれている受験生が集まってくれたと感じた。
--

【令和 6 年度の重点目標】

広報において, 生徒募集の強化として, 令和 6 年度入試から始まった 2 日間入試をしっかりと分析し, 志願者数が更に伸びるような対策を検討していく。また, 管理運営において, 本校 100 周年に向けての施策として, 記念棟の建設に関して, 令和 5 年度はあまり進まなかったもので, 今後の方向性がしっかりと決められるように検討していく。

以 上